

①

表1



表4



商品に関するお問い合わせ

0120-719-899

承り時間 9:00~21:00

(12/30~1/3の期間を除く、土・日・祝日も承ります)  
電話番号はお間違いのないようにお願いいたします。KAGOME  
健康直送便インターネット <http://shop.kagome.co.jp>

カゴメ健康直送便 検索

16K4021

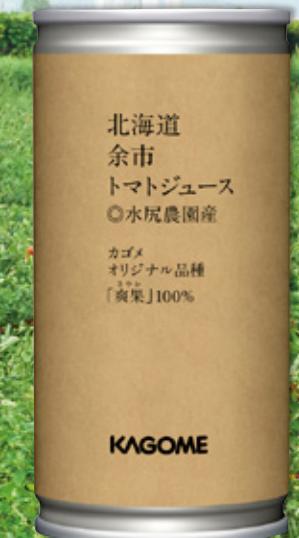




北海道

余市町から、

愛をこめて。



## 自然豊かな農業の町。

北海道余市町は、日本海に突き出た積丹半島の付け根に位置し、北に日本海を望み、東は小樽市と隣接しています。

現在人口は2万人ほどの小さな町ですが、古くから漁業と農業が盛んで、最近ではウイスキー・ワインなどの産業も、全国的に知られるところとなっています。

農業王国と言われる北海道の中でも、余市はりんご、葡萄、梨の栽培が盛んで、豊かな農業の町。そんな環境の中、葡萄農家の4代目として生まれた水尻宏明さん。50歳を目前にして、この地で大地とともに生きていく決心をしたそうです。

農業を始める前、首都圏や札幌で出版・広告関係の仕事に携わってきたという水尻さん。故郷に帰つて最初に感じたことは、「とにかく子供の頃のような活気が町になくなつた」ということ。これだけ豊かな自然や農産物に恵まれているのにそれが上手く活かされていない。それを素直に「もつたいない！」と感じたそうです。

## 『爽果』との出会い。

水尻さんと『爽果』が出会ったのは、「農福連携によって余市を元気にできないか、何か新しいことはできないか」。丁度そんなことを考えていた時のことだったといいます。決め手となつたのは、「日本ではまだどこも本格的に栽培していないこと」そして「カゴメが新しい味わいのジュースのために開発したオリジナル品種だつた」という2点だったそうです。

## わずか苗35本からの挑戦。

『爽果』はカゴメが10年もの歳月をかけて、クセのない飲みやすいジュースを作るために開発した特別なトマト。デリケートな味わいを求めるが故に、果皮が極めて薄く、ちよつとしたことですぐ割れてしまう、栽培がとても難しい品種です。そんな『爽果』に対して、わずか苗35本の実験栽培から挑戦を始めた水尻さん。まる2年間を試験栽培のために費やしました。

## 初めて飲んだ時のこと。

さまざまな試行錯誤の時を重ね、数量は少ないながらも今年ようやく初出荷にこぎつけた水尻さん、「爽果」を搾って初めてそのジュースを飲んだ時のことなどを語ります。

「実は私、トマトジュースが苦手なんです。そんな私が“素直に美味しい”と感じました。カゴメから聞いていた『新しい味わい』とはこういう味だったのかと、それは2年間の努力と苦労に報いてくれる美味しさでした」。

私たちちは応援します。

日本で唯一、カゴメのオリジナル品種『爽果』を育ててくださっている水尻さん、「来年はもっと多くの皆さんに、この美味しさをお届けしたい。そして余市にも昔の活気を取り戻したい」と、早くも来年への決意を語ってくれました。

私たちカゴメは、そんな水尻さんを、これからも応援していきます。



水尻さんの来年への挑戦は既に始まっている。

「手間がかかるほど、かわいいものです」(笑)

50歳を目前にして就農。自らを「新米農家」と呼ぶ。

香り立つような鮮やかな赤。だが、栽培は極めて難しい。

「新しい農業で余市を元気にしたい」。水尻さんの想いは強い。

海も、山も美しい、北海道余市町。